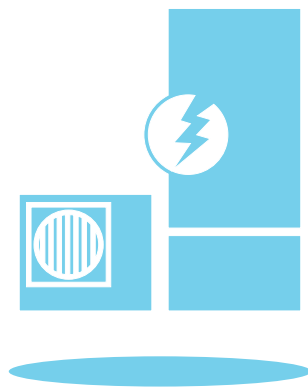


省エネ機器の上手な使い方・選び方

「エコキュート」

ますます省エネ効率が高まるエコキュート。
使い方しだいで、より効率的にご使用いただけます。



■ 上手な使い方

● 説明書をよく読んで

製品の説明書には便利な省エネ設定や、おすすめの使い方が紹介されています。メーカーの説明書やWEBサイトを参考にしましょう。

● 保温や追いだきは控えめに

保温や追いだきは、昼間の電気使用量が増えて効率が悪くなることもあります。また、冷たくなった残り湯から沸かし直すより、ヒートポンプを利用してお湯を作ったほうが構造的に省エネです。おふろの残り湯は上手に使いきり、お湯を張り直すほうが結局は省エネになります。



● 入浴は間隔をあけずに

保温や追いだきに無駄なエネルギーを使わないよう、入浴は間隔をあけずに、お風呂にはフタをしてお湯が冷めないようにしましょう。

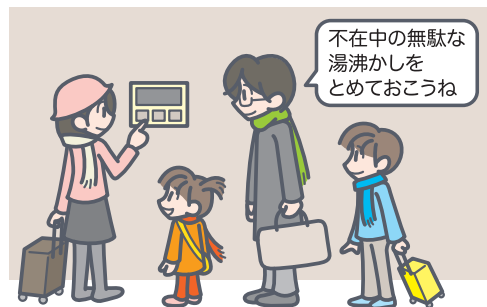


● 出荷時の設定がおすすめ

製品は、メーカーがおすすめする最も効率のよい設定で出荷しています。

お湯が足りなくなりそうな時には、リモコンの『沸き足し*』を押して必要な湯量を確保してください。旅行等で長期不在の時などは、リモコンの『休止*』設定をしてください。

*メーカー・機種により呼称が異なります。詳しくは取扱説明書をご参照ください。



■ 上手な選び方

● エコキュートの種類

ご家庭の家族構成や、設置状況を確認し、ライフスタイルに合った機器を選びましょう。また、地域によっては冬の寒さに適した寒冷地仕様タイプがあります。

フルオートタイプ：自動でお湯はり、保温、足し湯まで

オート(セミオート)タイプ：自動でお湯はり

給湯専用タイプ：カランからお湯はり

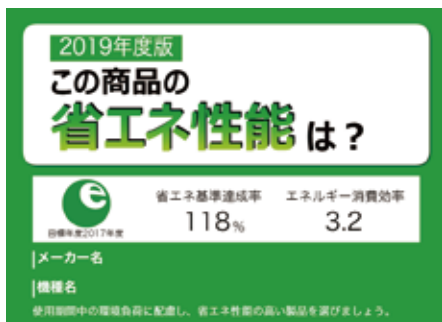
このほかミスト機能や床暖房にも使用できる多機能タイプもあります。

● 貯湯容量(リットル)

エコキュートは主にヒートポンプとタンクで構成され、貯湯容量が大きいほど、世帯人数が多いご家庭に適しています。適切な貯湯容量を選ぶと、湯量が不足せず、無駄なエネルギーも省き快適に利用することができます。

人数の目安	タンク容量
2～4人家族の場合	300Lクラス
3～5人家族の場合	370Lクラス
4～7人家族の場合	460Lクラス
5～8人家族の場合	550Lクラス

出所：一般社団法人 日本冷凍空調工業会



エコキュート
目標年度2017年度

省エネ基準達成率が高いほど省エネに優れた
年間消費電力量も少なくなります。

エネルギー消費効率

同じ貯湯容量、機能の場合、エネルギー消費効率が高いほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。

エコキュートは、貯湯容量、寒冷地仕様、ふる保温機能、貯湯缶数により分けられた区分ごとに、目標基準値が設定されています。機器の貯湯容量が異なるなど、選び方によってエネルギー消費効率だけでは比較が難しい場合は、省エネ基準達成率も参考にしてください。

■ 掲載製品

家庭用電気温水機器で、二酸化炭素を冷媒として用いるヒートポンプで構成するものを掲載しています。暖房用、業務用製品は対象外です。

■ 絞り込み検索

ふる保温機能有り(フルオート)/なし(セミオート・給湯専用)と貯湯容量(リットル)によって絞り込み検索ができます。

● ふる保温機能有り

フルオート 240L未満
フルオート 240L以上320L未満
フルオート 320L以上550L未満
フルオート 550L以上
フルオート 少人数

● ふる保温機能なし

セミオート・給湯専用 240L未満
セミオート・給湯専用 240L以上320L未満
セミオート・給湯専用 320L以上550L未満
セミオート・給湯専用 550L以上
セミオート・給湯専用 少人数

■ 各種表示

● 省エネ基準達成率(%)

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。エコキュートは、貯湯容量、寒冷地仕様、ふる保温機能および貯湯缶数により分けられた区分ごとに、目標基準値が設定されています。

● エネルギー消費効率

1年間に得る熱量(単位MJ)と消費電力量(単位kWh)をJIS C 9220(2011)に基づき測定し、算定式により求めた結果を小数点1桁まで表示しています。

ふる保温機能を有する場合は「年間給湯保温効率」、ふる保温機能なしの場合は「年間給湯効率」で表します。

ふる保温機能を有するもの
年間給湯保温効率 =

$$\frac{1年間に使用する出湯水が得た熱量(MJ) + 保温のために浴槽水が得た熱量(MJ)}{1年間に必要な消費電力量(kWh) \times 3.6}$$

ふる保温機能がないもの
年間給湯効率 =

$$\frac{1年間に使用する出湯水が得た熱量(MJ)}{1年間に必要な消費電力量(kWh) \times 3.6}$$

MJ(メガジュール)は発熱量の国際単位です。MJをkWhで除す場合、1kWh = 3.6MJの換算ができることから、換算係数として3.6を使用しています。

● 貯湯容量(L)

製品に表示される貯湯量です。JIS C 9220(2011)「家庭用ヒートポンプ給湯機」に規定する湯水を貯蔵できるタンクの容量を指します。

標準(4人家族用)で370~460リットル、コンパクトタイプ(単身・2人など)で150~200リットルと考えられます。

少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、貯湯容量が表示されない場合もあります。

● 寒冷地仕様

寒冷地仕様は、JIS C 9220(2011)に規定する冬の寒さが厳しい地域での仕様を指します。一般地向けとは区別して設計・製造され、その評価方法も異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。

● フルオート

下記の機能別に区分しています。

フルオートタイプ

自動お湯はり、足し湯、保温、追いだきができます。

オート・セミオート・給湯専用タイプ

自動お湯はり、足し湯ができるオート、セミオートの他に、給湯専用タイプ等の製品があります。

フルオートはふる保温機能があるもので、保温のために浴槽水に熱を加えることから消費電力量が他製品とは異なります。ふる保温機能の有無によってエネルギー消費効率の測定方法、算出方法、エネルギー消費効率の基準値も異なります。

● 貯湯缶数

貯湯タンクが1つのもの(一缶式)と、設置される場所を考慮して、小容量の複数のタンクで構成するもの(多缶式)に区分しています。貯湯缶数によって保温性能が異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。

少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、ほとんど一缶式と考えられるため、貯湯缶数は表示されません。

「エコキュート」という名称は関西電力の登録商標4575216号です。許諾を得て各社が使用し、広く認知されていることから、「省エネ型製品情報サイト」では「エコキュート」という名称を採用しました。

トップランナー制度では「電気温水機器(ヒートポンプ式給湯器)」として告示され、平成25年12月から特定エネルギー消費機器に指定されました。

自然冷媒である二酸化炭素(CO₂)を冷媒としてヒートポンプを駆動させ、お湯を供給する家庭用給湯機器で、自然冷媒ヒートポンプ給湯機、CO₂冷媒ヒートポンプ給湯機、単にヒートポンプと称される場合もあります。ヒートポンプは「熱のポンプ(汲み上げ)」の言葉通り、熱を与えたり奪ったりする省エネ技術で、エアコンや冷蔵庫でも利用されています。